令和元年8月9日平和学習・校長講話資料

『生ましめんかな』　　栗原　貞子

こわれたビルディングの地下室の夜だった。

原子爆弾の負傷者たちは

ローソク1本ない暗い地下室を

うずめて、いっぱいだった。

生ぐさい血の匂い、死臭。

汗くさい人いきれ、うめきごえ。（人いきれ：多くの人の体からの熱や湿気で、むんむんすること。）

その中から不思議な声が聞こえて来た。

「赤ん坊が生まれる」と言うのだ。

この地獄の底のような地下室で

今、若い女が産気づいているのだ。（産気づく：子どもが生まれそうになること。）

マッチ1本ないくらがりで

どうしたらいいのだろう

人々は自分の痛みを忘れて気づかった。（気づかう：心配する。）

と、「私が産婆です。私が産ませましょう」（産婆：出産の手助けをする女性。）

と言ったのは

さっきまでうめいていた重傷者だ。

かくてくらがりの地獄の底で（かくて：こうして）

新しい命は生まれた。

かくてあかつきを待(ま)たず産婆(さんば)は血(ち)まみれのまま死(し)んだ。　（あかつき：夜明け）

生(う)ましめんかな　（生ましめん：生ませよう）

生(う)ましめんかな

己(おの)が命(いのち)捨(す)つとも　（捨つとも：たとえ捨てたとしても）

（『中国文化』一九四六年三月）

この詩は、原爆が投下された日に実際にあった話をもとに作られた詩だと聞いています。長崎県にある高校で学ぶあなたたち・長崎県の高校で教える私たちには、**原爆の悲惨さについて、次の世代の人々に語り継いでいく責任と義務がある**と、私は思っています。

原爆について、戦争について、まだまだ知らないことがたくさんあるはずです。
知らなかったというだけで終わりにするのではなく、**知らないことをもっと知る、もっともっと学ぶ努力を続けて欲しい**と思います。

そして、**戦争は嫌だ・原爆は嫌だという思いを、しっかりと口に出して言えるようになって欲しい**と思っています。

なお、毎年この時期に私は、もう一つ、生徒のみなさんに伝えたいことがあります。

それは、**自分の命を大切にして欲しい**ということです。さらに、**自分の命と同じように、人の命も大切にして欲しい**と、思っています。

人は、一人で生きていくことは出来ません。**多くの人に支えられ**、**多くの人を支えながら、たくさんの人と一緒に生きていくもの**です。自分の命だからと言って、自分で勝手にすることは許されないと、私は思っています。**これまでどれだけ多くの人に、あなたは生かされてきたか**、考えたことがありますか？　また、**あなたの何気ない一言で、どんなに多くの人が励まされてきたか**、知っていますか？

辛くて苦しくてどうしようもない時、誰でもいいので**大人の人に話をして**みて下さい。
相談してみて下さい。**辛く苦しいことから、逃げることもきっと出来る**はずです。

私はあなた方のことを、大切に思っています。**あなたたちは自分のことを、もっともっと好きになって**下さい。

最後に読売新聞　２０１９．７．１７（水）の編集手帳（コラム）を、掲載しています。「天才バカボン」という漫画を、知っていますか？

往年の漫画、赤塚不二夫「天才バカボン」に谷川俊太郎さんが詩を寄せたことがある。語り手はバカボンのパパで、詩には自分の中にすむもう一人の自分が登場する。

自分トフタリッキリデ暮ラスノダ……自分ガニコニコスレバ

自分モ嬉シクナッテニコニコスルノダ

自分ガ怒ルト自分ハコワクナルノデ

スグニ自分ト仲直リスルノダ

自分ハトッテモ傷ツキヤスイカラ

自分ハ自分ニ優シクスルノダ

きのう政府が発表した自殺対策白書に、「自分と仲直りして」「自分に優しくして」と呼びかけるパパの声を聞く思いがした。

未成年の自殺死亡率が統計開始以来、最悪となった。白書は原因を小中学生では親子の不和が多く、少し上の世代では学業不振、進路の悩みが目立つとしている。最初から自分にがっかりして生まれてくる人などいるはずはない。前述の詩はこう結ばれる。

自分ハ自分ガ好キデ好キデタマラナイ

自分ノタメナラ生命モ惜シクナイ

ソレホド自分ハスバラシイノダ

あまりにつらいことがあると、自分を好きなことを忘れてしまうのかもしれない。もしものとき、思い出すのだ。